

1 平成19年度小教研道徳部会研究主題

自己を見つめ、心豊かに生きる子どもを育てる道徳教育

2 研究主題の趣旨

(1) 研究主題設定の背景

本研究主題は、よりよい生き方を一層主体的に求める子どもを育てていくことを意図している。すなわち、子どもが自分のよさや可能性を信じ、自己課題*1をもって自己実現*2を目指しながらよりよい生き方を求めていくこと、子どもが道徳的価値の自覚を深めて実践することを重視するものである。

平成17年中教審答申においては、「子どもたち一人一人が、人格の完成を目指し、個人として自立し、それぞれの個性を伸ばし、その可能性を開花させること、そして、どのような道に進んでも、自らの人生を幸せに送ることができる基礎を培うことは、義務教育の重要な役割である」とされ、心豊かにたくましく生き抜いていく基盤となる力を育成することが不可欠とされている。しかしながら、家庭や地域の教育機能の低下、社会体験や自然体験の減少、社会全体のモラルの低下などのために、豊かな人間性をはぐんでいくことが困難になってきているのが教育の現状である。青少年の規範意識の低下、非行や犯罪の増加も懸念され、生命を大切にすることを強く求められているところでもある。さらに、平成18年12月に改正された教育基本法にも、「豊かな情操と道徳心を培う」ことが教育の目標に新しく加えられ、強調されている今日、豊かな心をはぐくみ、道徳的実践を充実させることがなお一層、望まれているといえよう。

本主題は平成17年度に設定されたものであり、板野郡を中心に研究が進められ、北島北小学校においては第20回四國小・中学校道徳教育研究大会徳島大会(小学校)、兼徳島県小学校道徳教育研究大会が行われた。本大会では、道徳の時間と体験や各教科等との関連を図りながら子どもの意識の流れを十分に見通した構想がなされており、子どもが自己評価を重ねながら主体的に道徳学習を進め、心豊かに生きる姿を見ることができた。この成果をふまえつつ、子どもが自己課題をもち、自己との対話を重ねながら道徳的実践に取り組んでいくことができるよう、18年度は三好郡・市を中心に研究に取り組んできた。そこでは、子どもそれぞれの道徳的価値に対する意識を深くとらえた授業を展開することや、道徳の時間とその他の教育活動との関連を図りながら道徳的実践に取り組むための方策が研究された。その中で、少人数を特性として生かすこと、地域とともに道徳教育をはぐくむことの重要性が見出され、それらは19年度の課題となっている。

(2) 研究主題について

「心豊かに生きる」とは

ここでは、「心豊かに生きる」とは「自分を大切にし、他と共生しながら自己実現を目指して生きること」であると考えたい。

人間は、自分の心を偽って自分をおとしめる行いをすれば心に痛みを感じるし、自分の願う生き方をすれば喜びを感じる。また、まわりの人を思いやって心が通い合ったとき、自然や芸術に感動したとき、誰かの役に立つことができたときなどには、自らの心が温かくなり、満たされるのを感じる。人間は「自分自身」、まわりの人や自然などの「他」を尊重し、共生していきたいという思いをもっているのである。

この、自他を尊重し、共生していきたいという思いがしっかりと心の中にあるとき、その人の心は豊かであるといえよう。そして、その思いは単に心の中の思いにとどまっているのではなく、無意識のうちに行動となって表れたり、積極的に行動として表されたりしてくるであろう。自分のよさを発揮し、自己実現を目指して生きる中で、その人のもつ豊かな心が行動となって表れてくるのであり、より豊かな心をはぐくむべく生きていくことがその人の自己実現へとつながっていくのである。

どうして「自己を見つめる」なのか

よりよい生き方をしようとするならば、わたしたちは自分自身のことをふり返り、自分の生き方へと反映させていかなくてはならない。自分自身をふり返ることによって、これからの自分の生き方を見出すことができ、心豊かに生きることもできるのである。

人間は、「心豊かに生きたい」という願いをもっている。その願いは意識の下に隠れていたり、漠然としたものであったりすることも多い。しかし、何かの契機によって「自分の生き方をさらによいものにしたい」と意識することがある。この意識が、自他とのかかわりにおいて「どのような生き方が大切なのか」「どのように生きればよいのか」という問いかけへと発展することで、自己との対話が始まる。問いかけが深ければ深いほどに、人間は自分自身と向き合い、どのように生きることが大切なのかと考える。それは今までの自分の価値観を確かめたり見直したりしながら自分自身をふり返っていることであり、自己を見つめているのである。このようにすることによって、人間は未来に夢と希望をもって自分なりの自己像を

描き、自己課題をもって心豊かに生きることのできるものである。

道徳教育において、心豊かに生きる子どもを育てるためには、子ども自身が「自分の生き方をさらによいものにしたい」と意識して自己を見つめるように導くことが大切である。そのかなめとなる道徳の時間を中心とした指導の在り方について、次の点を十分にふまえておくことが肝要である。

まず、子どもが「自分の生き方をさらによいものにしたい」という思いがもてるようにすることが大事である。偶然に頼っていたのでは、その思いをもつことは難しい。人はかかわりの中で生きている。自他とのかかわりの中から子どもが自己を見つめる契機となることを仕組んだり、あるいは子どもがあまり意識していない事柄にも注目させたりすることによって自己課題をもつことができるようにしたい。

また、道徳の時間には、それぞれが自己との対話を深めることができるよう十分に留意したい。そのことを通して、道徳的価値の自覚を深め、より心豊かな生き方へと導くようにするのである。これまでの自分自身をじっくりと見つめ直すことで、心豊かに生きる意欲を高めて自己課題をもたせたり、新たな自己課題に気付かせたりすることができ、実践への意欲を高めることもできるであろう。

さらに、道徳の時間にもった自己課題を追求することができるよう支援を行いたい。道徳の時間に学習したことは、実践を通してより確かなものとなったり、新たな自己課題となって発展したりする。道徳的実践のための場を設定したり、一人一人がそれぞれに道徳的実践に取り組んでいくことができるための支援を行いたい。また、道徳的実践を通して、心豊かな生き方のよさや心豊かに生きる自分のよさに改めて気付いたり、新たな自己課題をもったりできるよう、実践についての自己評価も大切にしたい。

3 研究内容と留意点

(1) 子どもが主体的に取り組む道徳学習の構想

- ・日常的な体験や体験活動を道徳学習に生かす構想の工夫
- ・子どもの自己課題を大切にした総合単元的な道徳学習の構想
- ・「心のノート」を位置付けた学習計画の在り方

この研究内容について深めるには、子どもの意識を予想しながら、道徳の時間の学習と、各教科等での学習や日常的な体験が有機的に関連するように構想することが大切である。

総合単元的な道徳学習は本主題に迫るための有効な方法である。総合単元的な道徳学習においては、学習の過程で子どもがもつ意識を予想して、子どもが意識をつなげていくことができるように単元を構想したり、複数の道徳の時間を通して子どもの思いや考えが深まり広がるように構想したりするための工夫が求められる。

(2) 自己への問いかけ、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の在り方

- ・子どもの悩みや心の揺れなどをとらえた道徳の時間の在り方
- ・子どもの心情に訴え、主体的に授業に参加できるようにし、自己への問いかけを深める指導方法の工夫
- ・心豊かな生き方への自信を深めたり、新たな自己課題へと発展させたりするための工夫
- ・道徳的価値の自覚を深める「心のノート」の活用

本主題の求める道徳の授業は、子どもが主体的によりよい生き方を追求していく授業である。したがって、道徳の時間に学習する事柄が、「自分にとって大切なことである」「考えを深めていこう」ととらえられるようにすることが重要である。その上で、子ども自身が、自己との対話を行いながら学習を進める中で自分自身を深く見つめ、道徳的価値の自覚を深めることができるように、発問や話し合い等、様々な指導方法を創作工夫したい。

そのような道徳の時間の指導によって、子どもは自己課題をもち心豊かに生きようとして実践することになる。その道徳的実践を通して心豊かに生きることを実現していくであろう。

(3) 自己を見つめることができる資料の開発・活用

- ・子どもにとって切実性があったり、自己課題をもつことができたり、強く心を揺り動かされたりする資料の開発・活用
- ・子どものさまざまな体験、教師の体験や願い、地域の文化や特性、保護者や地域の人々の生き方や願いなどを素材とした、子どもの心に響く資料の開発・活用
- ・多様な視聴覚教材や情報通信ネットワークなどを利用した資料の開発・活用

道徳の時間において、子どもが自己を見つめ心豊かな生き方へとつなげていくことができるように学習を深めるためには、どのような資料を用いるかが非常に重要である。子どもの自己課題にそっている、深く共感できるなど、子どもの心に響く資料を取り上げるようにしたい。そのためには既存の資料を取り上げるだけでなく、多様な素材に目を向け、表現方法を工夫することも視野に入れながら新しく資料を開発し、効果的に活用して授業を展開することも重要である。

(4)「豊かな体験」を道徳の時間に生かす工夫

- ・体験をより豊かなものとして意識させ、道徳の時間に生かす工夫
- ・体験から自己との対話を導く実践
- ・「心のノート」を活用して、体験を道徳の時間に生かす工夫

子どもは生活の中でさまざまな体験をする。その中には子どもの心に響くものがある。道徳的判断を迫ったり、人間としての在り方や生き方を投げかけたり、道徳的心情を揺さぶって感動させるものがあるのである。それらは、子どもの心に自己との対話を呼び起こす体験といえよう。こうした体験を、ここでは「豊かな体験」と考えたい。したがって、学校や地域の体験活動だけでなく、日常の何げない体験も子どもにとって「豊かな体験」となり得る。

道徳の時間には、このような体験を想起させるために、子どもの日記や作文を紹介したり、映像や写真などの視聴覚資料を用いたりするなどの工夫が考えられる。また、「心のノート」や道徳ノートを活用し、子ども一人一人が自己の体験を見つめ整理する時間を設け、それをもとに話し合うなどの工夫もできよう。

(5)心豊かに生きる子どもを育てる評価の在り方

- ・子どもが自分の心の成長を確認できるような評価の工夫
- ・共感的理解を基盤とし、継続的・総合的に子どもの道徳性を評価する工夫
- ・1時間1時間の道徳の時間のねらいを達成するために指導が適切であったかを評価し、次時の学習に生かす工夫
- ・指導計画の実施状態や効果の程度を評価し、その改善を図る工夫

心豊かに生きる子どもを育てるためには、子どもが自らの心の成長を実感でき、これからの自己課題が見つけれられるような評価の在り方を工夫していくことが大切である。例えば、自己を見つめる目を確かなものにしていくために、道徳ノートや評価カード等を用いて、継続的な自己評価を学習の中に位置付ける。また、子ども同士がお互いの心の成長を認め合い励まし合うことができるような、相互評価の機会をつくることなどが考えられる。

また、子どもの道徳性をとらえ、子どもの学びを個に即して継続的・総合的に評価することで、指導計画や道徳の時間の指導が改善され、一人一人の学びに応じた支援を行うことができる。

なお、教師の指導の在り方を検討し改善するための指導方法や指導計画等の評価方法についても積極的に研究を進めたい。

(6)家庭・地域社会と連携したり、校内で協力したりして道徳教育を進める工夫

- ・保護者や地域の人たち・地域の施設と連携を進める工夫
- ・校内における協力的な指導体制づくりや、学校の特色を生かした指導の工夫
- ・保護者や地域の人たちと連携を深める「心のノート」の活用工夫

家庭や地域社会との共通理解を深め、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人たちの積極的な参加や協力を得ることにやっけて、道徳教育の充実が期待できる。また、地域の特色を生かし、地域の施設や地域の人たちとの触れ合いを大切にしたり取り組みを工夫することでも、子どもの体験や実践が豊かなものになるであろう。

校内においては、校長や教頭の授業への参加、他の教師との協力的な指導など、工夫した指導体制づくりをすることで、道徳教育の推進に大きな効果を上げることができよう。さらに、それぞれの学校の特色を生かした魅力的な指導の工夫も大切となってくる。

* 1自己課題・・・道徳的価値に基づいて自らの理想や目指す自分像を実現させようとして設定するめあて。学習の初期においては漠然としたものであることも多いが、学習が進むにつれて、具体的で明確なものとなってくる。

* 2自己実現・・・「他」と調和しながら自分のよさや可能性を発揮して、自分の願いを実現していくこと。